



岡田理子 「ロシア美人」 F4 (水彩)

作者コメント

本当は可愛らしい女性なのに何故か怖そうになり残念でした。色が生すぎるのと背景は少し残した方が良かったのではと後悔しています。

喜田コメント

主張の強い作品です。この美人はきっと強い信念を持って生きてきた女性なのでしょう。それは彼女の強い目の力から分かります。「華やかな髪飾りを付けて、赤い花柄の衣装をまとうてモデルとなっている彼女は、今、何を考えているのだろう」と私は思います。人物の色彩もバックのセルリアンブルーの影も素晴らしい。しかし、胸から下の表現が物足りません。



筒井隆一 「柘榴（ざくろ）」F6（水彩）

作者コメント

「花言葉」は「円熟した優美さ」ですが、実って割れ目の入った果実からあまり優美さは感じられません。 親しい仲間が庭で育て、届けてくれました。

喜田コメント

今月の作品も素晴らしいです。

- (1) 背景を大胆にイエローとブルーで6：4に切ったところがスゴイ。
- (2) 白いポットを大きく描き、その頭を切ったところも良いと思う。
- (3) 以上のような背景（舞台装置）の中で主題の「3つの柘榴」を描きましたね。

主題の構図、描写、色彩すべて無難です。

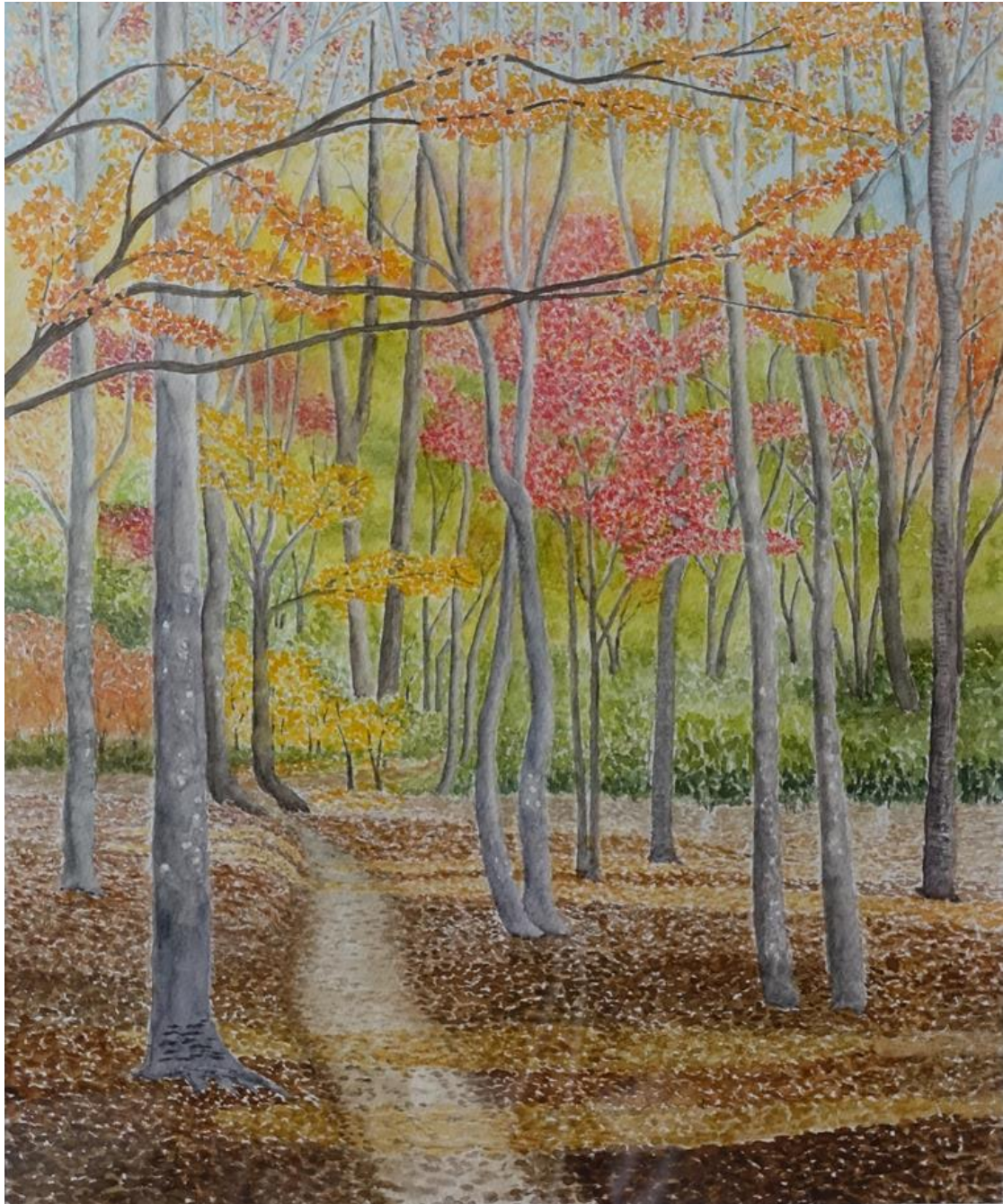
柘榴の表面の凹凸や細かい形状の変化等を良く観察して描いたと思います。

割れた柘榴の割れ目から細かい実が、今にもこぼれ出そうとしています。その実の光ったところを白を残して表現、とても上手いと思いました。

柘榴の葉は細かくて難しいのですが、明暗をうまく使って葉の存在感を出しています。葉の微妙な変化の表現も面白さがあります。影も4粒のこぼれ実も一役買っています。

- (4) 指摘するところが1つあります。

3つの柘榴の配置ですが、横一線に置いてありますが、真中の柘榴を少しだけ手前において、3つの柘榴が三角形を作るように配置する、手前の柘榴を少しだけ大きく描く、そうすることによって絵に変化が出ると思います。



黒田重雄 「赤城自然園小径」 F8（水彩）

作者コメント

群馬県の赤城自然園の紅葉に囲まれた小さな道、どこか懐かしい風景でした。小路の先に何があるか想像したくなる作品となっていれば成功なのですが、落ち葉と木々の肌の描画に注力しました。

喜田コメント

晩秋の雑木林の中にぬける1本の道がとても気持ちよく、引き込まれるような感動を覚えます。木の配置や縦横の構図も申し分ないと思います。落ち葉の上に落ちる秋の太陽の光が素晴らしいです。作者の言うように小径の先に何があるのかと想像したくなります。黒田さんは信じられないほど緻密に対象を観察して、信じられないほど正確に対象を表現する力を持っています。その力で作品の角から角まで100%均等に描くと息苦しくなります。ところどころに遊び（抜け・不完全性）があったほうが作品は面白くなります。しかし黒田さんの個性を伸ばさずなら今の描きかたをとことん追及したらいいと思います。



武智康子 「斑入り躑の花」 F4 (水彩)

作者コメント

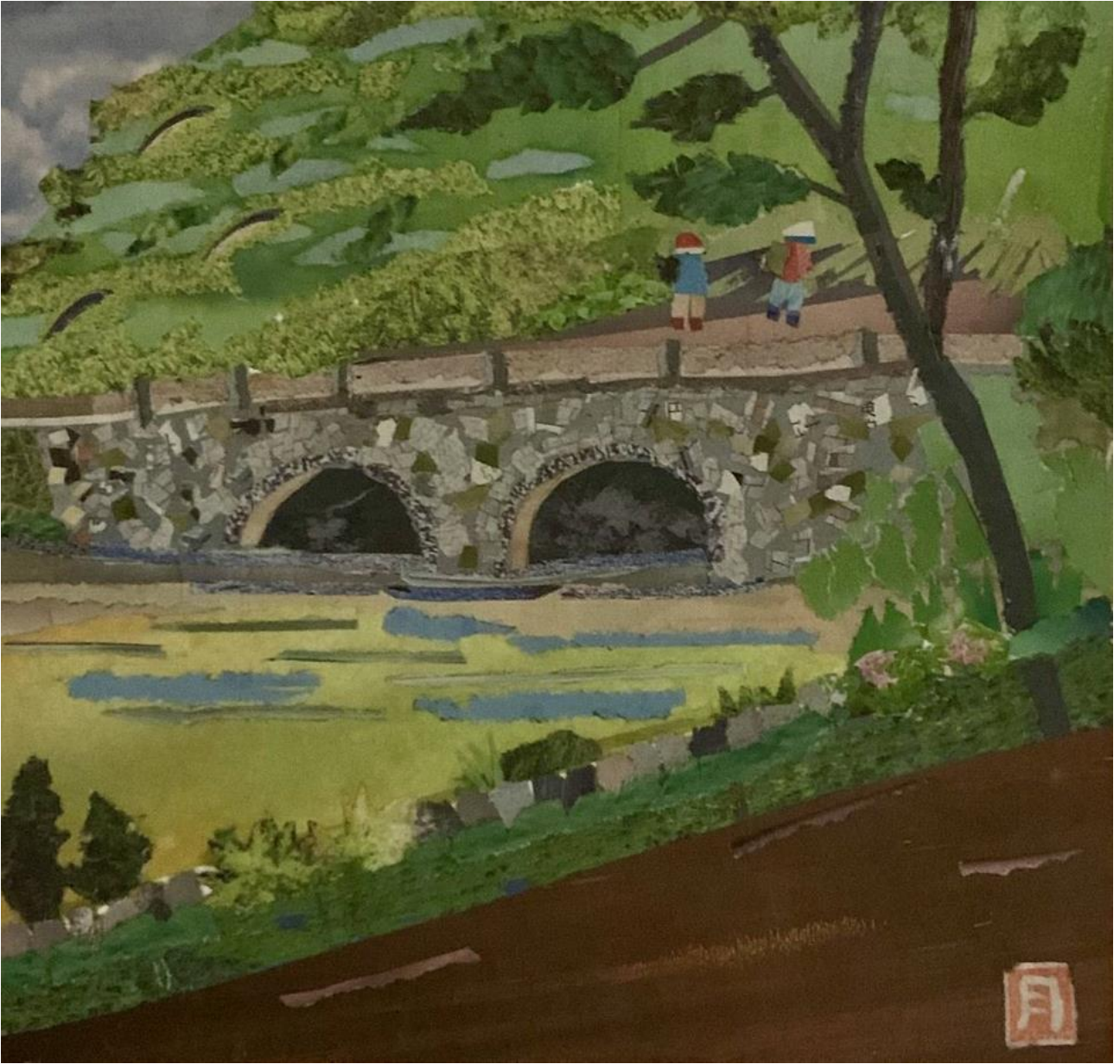
我が家のベランダガーデンの鉢植えの斑入りの躑が、今年も黄色の花を咲かせました。この躑は45年前、実家の庭から一株だけもらい、鉢植えにしたのが、大きくなり今では直径50センチ弱の鉢いっぱい成長し、この時期に黄色の花を咲かせ、私の気持ちを落ち着かせてくれます。斑入りですので春は葉っぱだけでもきれいです。今回この花を描いてみましたが、意外に難しかったです。バックを最初は、グレーにまとめてみましたが、絵が暗くなったので、部分的にプルシャンブルーを加えてみました。

喜田コメント

「斑入りの躑の花」美しいモチーフを選びましたね。素晴らしい出来栄だと思います。武智さんは学んだことを必ず次に生かす、勤勉さと能力を持っておられると思いました。今回の作品で特によかったと思った点は以下の通りです。

- (1) 躑の葉の質感と光と影
- (2) 葉脈の丁寧な表現
- (3) 花芯の観察と表現（前回の反省を見事に生かしました）
- (4) 黄色い愛らしい花卉の表現
- (5) 躑の茎の特徴をとらえた色彩と形

いつも悩まれる「背景」は作者コメントにあるように無難にまとめましたね。



月川りき江 「井の頭公園のメガネ橋」 18c mx17cm （ちぎり絵）

作者コメント

長崎のメガネ橋をちぎり絵にしたいと思いますが、今は行けませんので井の頭公園のメガネ橋の写真を一部ヒントにして作りました。

喜田コメント

これは月川さんのこだわりの1枚だと思います。故郷の長崎にある有名な「メガネ橋」、絵になるモチーフです。望郷の想いを井の頭公園の「メガネ橋」に託して制作した作品です。まず、構図がとても良いと思います。道路・メガネ橋・山端はすべて右上がり、それを左上がりの1本の木で調子を整えました。大部分を占める「緑」の色調は多様な緑を上手に組み合わせることによって、本当に面白い作品になりました。

石を重ねて創った橋の質感、2つのメガネの曲線の効果、メガネを縁取る細かい石の細工、どれも素晴らしいと思います。添景人物も面白いが、脚はしっかりと地面まで張ったほうが良い。また、手前の茶の道路部分（三角地帯）にも人物が居ても良いと思います。



竹前義博 「迎賓館前の街路樹の大木」 F6（水彩）

作者コメント

ウォーキングコースの途中にある大木で、いつかは描いてみたいと思っていました。この時期になると葉も落ちて、初冬の濃い青い空に、幹と枝だけが広がります。絵では幹しか描いてありませんが、実際は、細かい枝がたくさんあります。枝までは描ききれませんでした。碧い空も描くのが難しい。碧色一色なのですが。

喜田コメント

迎賓館まえの大木、葉をすべて落とした冬の大木が紺碧の空に向かって（葉のない）枝を広げている風景、とてもいいと思います。これがこの作品の主題ですよ。とにかく対象が明確なのが最高です。こここのところ竹前さんは都心の風景シリーズを描いています。それぞれに添景人物を描き、どれも物語性があるいいですね。

竹前さん独特の個性的な青い空の描きかたも（縦横に）変化をつけてとても良いと思います。一方、遠くのビル群は鉛筆で描いた縁取りの線が強く残り面白さがありません。一度、筆で縁取りを描いてみてください。新しい境地が開かれるかもしれません。

多様な緑の表現は以前に比べると格段に進歩したと思います。

構図上のアドバイスですが、主題の大木は画面の中央でなく、少しずらせた方が良いと思います。そして、右奥にある2本目の大木でバランスをとるとよい。人物や遠方のビル等、作品全体でバランスを整えましょう。右から差す光を感じて良いと思います。



若林哲史 「小樽運河」 F4 (水彩)

作者コメント

冬 11 月の小樽は結構冷え込みます。でも、今では保存区域で、水面は鏡のようで、彩り豊かな倉庫や常緑樹の緑を写し出していました。

喜田コメント

小樽運河沿いの倉庫街、有名なスケッチポイントです。かつて私も小樽のこの場所で沢山描きました。もう 25 年も前のこと、今ではこんなにカラフルな倉庫になっているのですね。懐かしく拝見しました。若林さんの作品は淡い色が素晴らしいです。水彩特有の透明感と清潔感がこの作品にも充満しています。

運河の右側はカラフルな倉庫群（今はビヤホールやレストランやお土産ショップ?）、左側は黒々と立つ冬の常緑樹と川沿いの道、この左右の対比が面白いと思います。遠くに橋と街並みと家々と雪を被るまえの山が上手に描かれています。船も絶妙な場所に。水面は傾きなく正しく並行に保たれています。これは本当は難しいのです。倉庫や木々の淡い影と初冬の弱い光を写し出している水面が特にきれいです。縦の影と横方向の影が上手に調和しているのも見事です。特に修正点はありません。若林さんが今回訪ね損ねた、北原ミレイの歌う「ニシン御殿」に私は行ったことがありますので写真をここに貼り付けておきます。



小樽市ニシン御殿

1898 年、積丹の泊村に建てられ 1958 年に現在地に移設された。御殿は網元の居住地区が中心だが、望楼や番屋も含まれ、家族のほかにも 120 名の漁師達が寝起きしていた。うち半数は「やん衆」と呼ばれた出稼ぎである。ピークは 1930 年ころ。



井上清彦 「秋バラの咲く新宿御苑」 F4 (水彩・パステル)

作者コメント

モーゼスおばあさんにならって、背景から描き始めた。
遠近感をだすため、ビル群は薄い色にして、前面のバラと葉を濃く描いてみた。
中間の芝生をもう少し大きく表現して、公園の感じをうまく出せば良かった。

喜田コメント

いつものように、井上さんの個性を十分に発揮した作品ですね。
遠方のビル群と空を入れたことで、遠近感を作品に盛り込むことが出来ただけでなく、見るものにいろいろなことを考えさせる効果も出たと思います。遠くの森やその先に見えるビル群や空がしっかり脇役として、主役の赤い薔薇園を支えています。とても上手です。
主体のお花畑は「花の房と葉っぱ」を力強く描いてよかったですね。色々な色彩と葉っぱと花の縁取りも面白いと思いました。特にプルージアンで縁取りされた何枚かの葉っぱが作品にアクセントをつけたと思います。鉛筆やペンでの縁取りは、無機質感があって余りよくありませんが、このような色筆での個性的な縁取りは、作品に面白さを出すのに貢献します。
遠くの森はプルージアン・ブルーだけでなくもう少し薄い何種類かの色彩があったほうが良かったと思います。例えば薄いオレンジ・バーントシェンナ・サンゴ色など、また、描きかたも筆の跡（マチエル）を残すような描きかたが良いと思います。



喜田祐三 「万国橋とジャック塔」 F15 (油彩)

作者コメント

昔よく横浜に写生に行った。横浜には古い倉庫、レンガ造りの古いビル、海と入り江と港と船がある。特に横浜の赤レンガ倉庫近くが写生のスポットだ。近くにある「万国橋」と「開港記念館」のジャック塔を組み合わせ、今の感性で描いてみた。

ここはよく描いた場所なので、目をつぶっても描ける。思いを一杯に巡らせながら、思い出深い風景を作るのは楽しい作業である。

昔、若い時代に描いたものとは一味違った趣の作品になった。